

事業所名

ハッピーライフたいしょう

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2025 年

2 月

1 日

法人理念	地域のライフラインであるための”おもろい”場所づくり				
支援方針	多彩な支援活動および体験・地域交流を通して、子どもたちの「やってみたい!」「できた!」を大切にしながら、自信につなげること、挑戦する気持ちを育みます。社会の中で自分らしく生き抜くために、一人で出来る事を増やし、自信を持って共に生活する力を身に付けます。				
営業時間	9 時	30 分から	18 時	30 分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	【健康】健康な心と体であるため、日々の検温および障がいの特性、発達過程を配慮し小さなサインから心身の異変に気づけるよう観察を行う。利用中に体調の変化がある場合は適切な対処（例：医療機関へ受信、保護者へ状況の報告等）を速やかに行う。 【生活】ご家庭と連携しながら、食事・睡眠・衣類の着脱・排泄等、個々に合わせた基本的技能を支援する。 遊びの中から学べるよう環境を整える。イラストや音楽で行動の切り替え（自由遊び→集団遊び等）、障がい特性を配慮し時間や空間を分かりやすく構造化する。			
	運動・感覚	ひとり一人を理解し、姿勢保持や運動また動作が困難な場合は保護者さまと連携を取り、適切な訓練を行う。障がい特性に合わせてながら日常生活に必要な移動能力向上のため、運動を取り入れた活動を行う。（サーキット・ボール遊び・鬼ごっこ・公園遊び・ダンス等） 発達段階、特性に配慮した視覚・聴覚・触覚等の感覚が十分に活用できるような遊びを行う。（ボール転がし・砂遊び・〇×クイズ・リズム運動等）			
	認知・行動	個人に合わせて、感覚を十分に活用し、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す制作活動（折り紙・塗り絵・粘土等）や運動遊び（平均台・鉄棒・マット等）を取り入れる。 保有する畑の野菜を育てる過程や収穫・品種・色・形・重さ等から成長の違いを一緒に考えながら、生命の大切さを体験します。 また、ひとり一人を適切に評価し、理解したうえで、関わり方・伝え方を大切に、安心できる環境を整えます。			
	言語 コミュニケーション	発達段階・特性に応じて、言葉や身振り・サイン・文字・絵カード等を用いて相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを相手に伝える力を育みます。 集団遊びでルールを伝える・終わりの会で「楽しかったこと」「がんばったこと」を伝えるなど、発表する機会を作ります。			
	人間関係 社会性	身近な人との信頼関係を構築し、周囲の人とも安心して過ごせる環境を整えます。集団活動の参加から「助けてほしい」「手伝ってあげる」など協調性や思いやりを育みます。 公共の場や買い物体験、他事業所との合同イベントを通して初めて会う人との関わりから、人間関係や社会性を身につけ、自立に向けた実践を学びます。			
家族支援	子どもに関する情報の提供と家庭での様子の聞き取りによる定期的な支援の調整をする。 子育て上での不安や悩みに寄り添い、支援内容の検討・提案を行う。 定期面談・保護者交流会・親子イベントで活動の様子を共有する。	移行支援	学童保育や併用事業所との連絡調整を行う。また、必要に応じて情報の共有を行う。 合理的配慮を含めた進路先への情報と支援内容の共有をする。 本人・保護者様への相談援助を実施する。		
地域支援・地域連携	医療機関・児童相談所等の専門機関と連携をとる。 スムーズに生活が送れるように教育機関関係者と連絡調整や情報共有をする。 ケース会議・地域支援体制構築の会議へ参加する。	職員の質の向上	年間研修計画に基づき、定期的に全職員または管理者・対象者別の専門分野の研修を実施する。 ビジネスマナー・リーダーシップ研修・ハラスメント研修を実施する。		
主な行事等	(1月)餅つき大会 (2月)節分祭 (3月)進級お祝いの会 (8月)夏祭り・地藏盆 (10月)ハロウィンイベント (12月)クリスマス会 (他)農業体験・スポーツフェスタ・フットサル大会・自然散策・施設見学等				

事業所名

ハッピーライフたいしょう

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2025 年

2 月

1 日

法人理念	地域のライフラインであるための”おもろい”場所づくり						
支援方針	多彩な支援活動および体験・地域交流を通して、子どもたちの「やってみたい!」「できた!」を大切にしながら、自信につなげること、挑戦する気持ちを育みます。社会の中で自分らしく生き抜くために、一人で出来る事を増やし、自信を持って共に生活する力を身に付けます。						
営業時間	9 時	30 分から	18 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	【健康】健康な心と体であるため、日々の検温および障がいの特性、発達過程を配慮し小さなサインから心身の異変に気づけるよう観察を行う。利用中に体調の変化がある場合は適切な対処（例：医療機関へ受信、保護者へ状況の報告等）を速やかに行う。 【生活】ご家庭と連携しながら、食事・睡眠・衣類の着脱・排泄等、個々に合わせた基本的技能を支援する。 遊びの中から学べるよう環境を整える。イラストや音楽で行動の切り替え（自由遊び→集団遊び等）、障がい特性を配慮し時間や空間を分かりやすく構造化する。					
	運動・感覚	ひとり一人を理解し、姿勢保持や運動また動作が困難な場合は保護者さまと連携を取り、適切な訓練を行う。障がい特性に合わせてながら日常生活に必要な移動能力向上のため、運動を取り入れた活動を行う。（サーキット・ボール遊び・鬼ごっこ・公園遊び・ダンス等） 発達段階、特性に配慮した視覚・聴覚・触覚等の感覚が十分に活用できるような遊びを行う。（ボール転がし・砂遊び・〇×クイズ・リズム運動等）					
	認知・行動	個人に合わせ、感覚を十分に活用し、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す制作活動（折り紙・塗り絵・粘土等）や運動遊び（平均台・鉄棒・マット等）を取り入れる。 保有する畑の野菜を育てる過程や収穫・品種・色・形・重さ等から成長の違いを一緒に考えながら、生命の大切さを体験します。 また、ひとり一人を適切に評価し、理解したうえで、関わり方・伝え方を大切に、安心できる環境を整えます。					
	言語 コミュニケーション	発達段階・特性に応じて、言葉や身振り・サイン・文字・絵カード等を用いて相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを相手に伝える力を育みます。 集団遊びでルールを伝える・終わりの会で「楽しかったこと」「がんばったこと」を伝えるなど、発表する機会を作ります。					
	人間関係 社会性	身近な人との信頼関係を構築し、周囲の人とも安心して過ごせる環境を整えます。集団活動の参加から「助けてほしい」「手伝ってあげる」など協調性や思いやりを育みます。 公共の場や買い物体験、他事業所との合同イベントを通して初めて会う人との関わりから、人間関係や社会性を身につけ、自立に向けた実践を学びます。					
家族支援	子どもに関する情報の提供と家庭での様子の聞き取りによる定期的な支援の調整をする。 子育て上での不安や悩みに寄り添い、支援内容の検討・提案を行う。 定期面談・保護者交流会・親子イベントで活動の様子を共有する。	移行支援	学童保育や併用事業所との連絡調整を行う。また、必要に応じて情報の共有を行う。 合理的配慮を含めた進路先への情報と支援内容の共有をする。 本人・保護者様への相談援助を実施する。				
地域支援・地域連携	医療機関・児童相談所等の専門機関と連携をとる。 スムーズに生活が送れるように教育機関関係者と連絡調整や情報共有をする。 ケース会議・地域支援体制構築の会議へ参加する。	職員の質の向上	年間研修計画に基づき、定期的に全職員または管理者・対象者別の専門分野の研修を実施する。 ビジネスマナー・リーダーシップ研修・ハラスメント研修を実施する。				
主な行事等	(1月)餅つき大会 (2月)節分祭 (3月)進級お祝いの会 (8月)夏祭り・地藏盆 (10月)ハロウィンイベント (12月)クリスマス会 (他)農業体験・スポーツフェスタ・フットサル大会・自然散策・施設見学等						